

菰野町地域公共交通計画(案)

～公共交通で気軽におでかけができるまちを目指して～

4 菰野町と地域公共交通の現状

5 地域公共交通の課題

4 菰野町と地域公共交通の現状

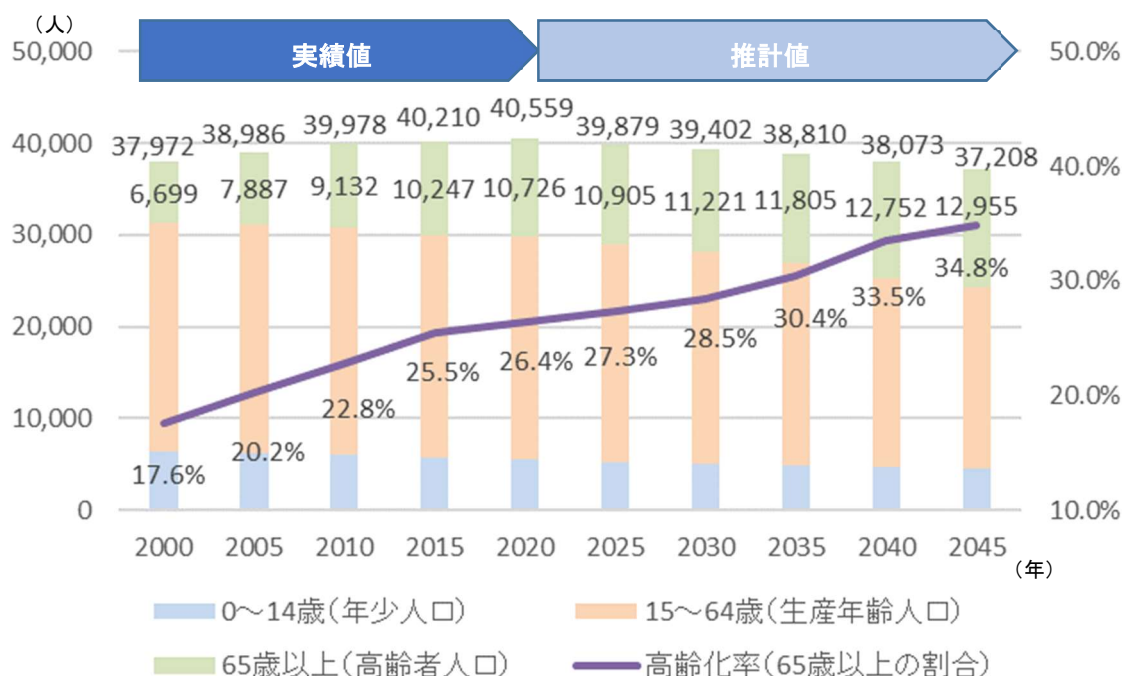
4-1 菰野町の現状

①人口

●菰野町の国勢調査人口は、国や県がすでにピークに達したのに対し、2020年は40,559人、うち65歳以上人口は10,726人(26.4%)となり、総人口は2015年と比較して349人増加しています。

●国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2045年には総人口が37,208人、うち65歳以上人口は12,955人(34.8%)と予想されています。

■ 菰野町の人口及び高齢化率



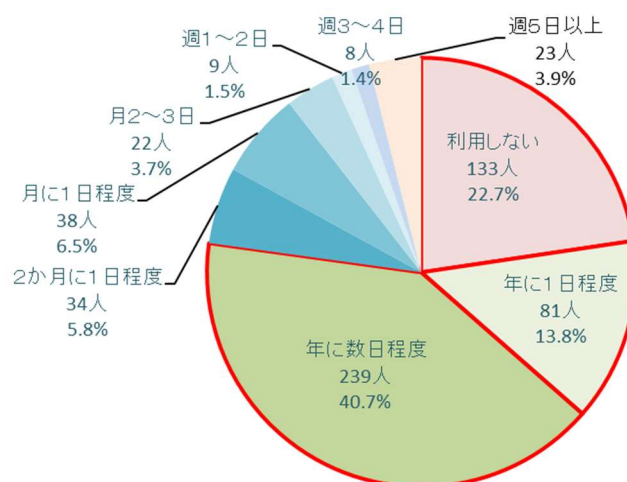
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口(平成30(2013年推計))

②移動手段

●町民の公共交通の利用頻度は、「利用しない」、「年に1日程度」、「年に数日程度」を合計すると約77%となっています。また、通勤・通学者の移動手段は、公共交通が約11%、自動車が約78%となっており、ほとんどの人が自動車で移動しています。

●以上のことから、日常的な外出行動(通勤・通学、通院、買い物、飲食、娯楽)の移動手段は、主に自動車を利用していることがうかがえます。

■ 公共交通の利用頻度



出典:令和2年度町民アンケート調査結果

■ 通勤・通学者の移動手段

単位:(人)

移動手段	人数
1 徒歩のみ	501
2 電車のみ	1,140
3 乗合バスのみ	50
4 勤め先・学校のバスのみ	93
5 自家用車のみ	15,239
6 タクシーのみ	7
7 オートバイのみ	124
8 自転車のみ	1,028
9 その他のみ	151
10 電車及び乗合バス	98
11 電車及び勤め先・学校のバス	30
12 電車及び自家用車	356
13 電車及びオートバイ	11
14 電車及び自転車	238
15 その他利用交通手段が2種類	204
16 利用交通手段が3種類以上	124
17 利用交通手段「不詳」	173
合計	19,567

出典:令和2年国勢調査

③自動車利用

●菰野町の自家用乗用車保有台数(令和4年3月末現在)は27,752台で、1世帯当たり1.641台です。これは全国平均の1.032台や三重県平均の1.439台より多く、自動車の利用が多いことがうかがえます。

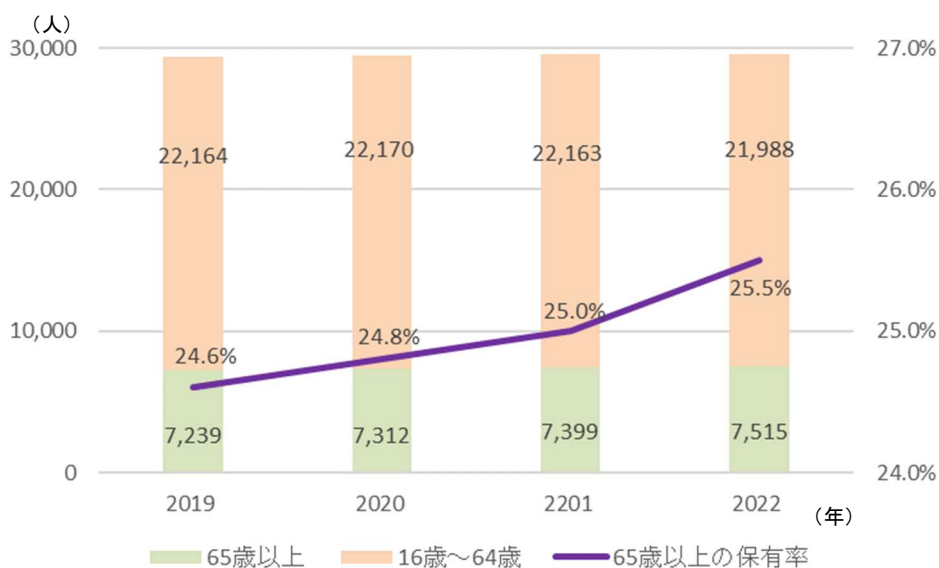
●菰野町の運転免許保有者数(二輪車等含む。)の推移を見ると、2022年の16～64歳は21,988人で減少傾向ですが、65歳以上の高齢者は7,515人で増加傾向にあります。

■ 1世帯当たりの自家用車保有台数

都道府県	値	順位
全国	1.032	
福井県	1.708	1
富山県	1.652	2
山形県	1.642	3
群馬県	1.593	4
⋮		
三重県	1.439	15
⋮		
京都府	0.807	44
神奈川県	0.684	45
大阪府	0.627	46
東京都	0.421	47
県内市町	値	順位
多気町	1.903	1
度会町	1.819	2
玉城町	1.710	3
いなべ市	1.702	4
東員町	1.671	5
菰野町	1.641	6
明和町	1.619	7
木曾岬町	1.589	8
亀山市	1.560	9
鈴鹿市	1.535	10
伊賀市	1.478	11
⋮		

出典:2023 統計でみる三重のすがた

■ 菰野町の運転免許保有者数(二輪車等含む。)



出典:三重県警提供資料

④観光

●湯の山温泉、御在所岳、湯の山温泉を訪れた文人達の足跡など、自然、歴史に育まれた豊富な地域資源があり、多くの方が菰野町を訪れます。

●日帰りと宿泊を合わせた観光客入込者数は、神宮式年遷宮が行われた2013年は301万人、湯の山温泉開湯1300年を迎えた2018年は250万人、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で175万人に減少しましたが、2022年は189万人となり、僅かながら回復しています。



■ 湯の山温泉



■ 田光 コスモス畑

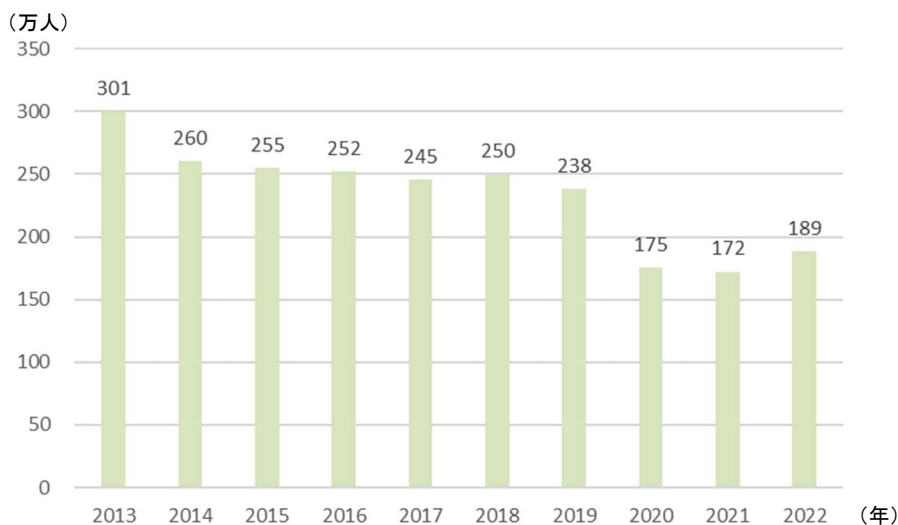


■ 僧兵まつり 火炎みこし



■ 冬の御在所岳

■ 菰野町の観光客入込者数



出典：菰野町観光客入込者数調査

4-2 地域公共交通の現状

①鉄道

●近畿日本鉄道(株)の1事業者が鉄道事業を行っています。近鉄湯の山線は町内に4つの駅があり、主に四日市市や中部地域の中心都市である名古屋市などへの通勤通学に利用されています。

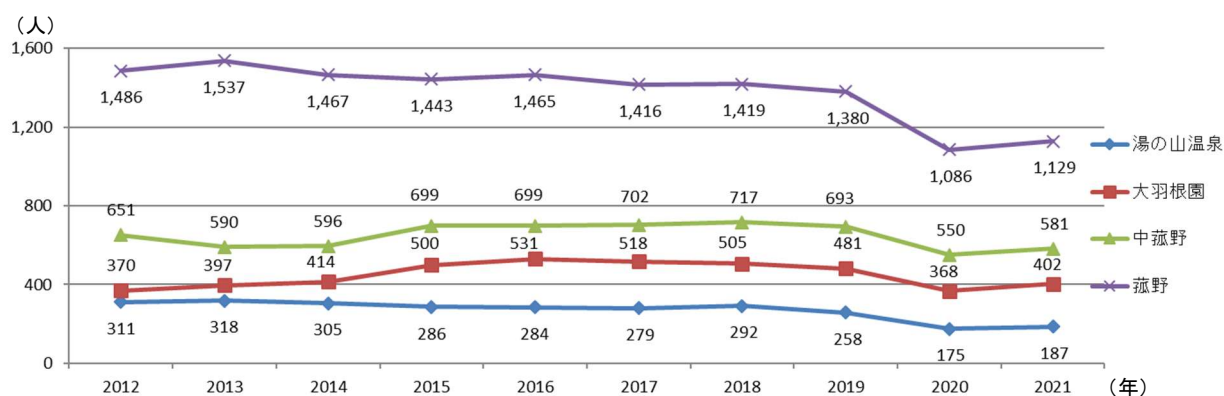
●町内で最も利用者が多い菰野駅は、2013年は1日平均1,537人の乗車がありましたが、2021年は1,129人の乗車となり、約27%減少しています。

■ 近鉄湯の山線の年間乗車人員

駅名	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
湯の山温泉	113,346	115,890	111,332	104,662	103,575	101,803	106,648	94,390	63,756	68,308
大羽根園	134,874	144,841	151,001	182,820	193,713	189,216	184,305	175,985	134,188	146,753
中菰野	237,455	215,436	217,494	255,732	255,135	256,355	261,670	253,812	200,667	212,080
菰野	542,310	560,959	535,600	528,277	534,709	516,931	517,847	505,224	396,320	412,159
桜	763,727	786,178	748,832	769,003	777,209	755,415	711,967	699,439	563,886	591,863
高角	202,057	203,498	194,280	197,039	202,090	199,020	205,145	201,214	164,407	162,073
伊勢川島	454,518	473,712	458,438	468,209	480,737	472,544	481,412	473,763	383,105	382,897
伊勢松本	547,566	553,708	534,212	557,212	544,500	561,765	579,558	578,983	455,841	483,437
中川原	325,835	336,850	325,951	344,849	363,925	378,945	407,391	419,640	345,842	362,118
近鉄四日市	7,702,640	7,915,410	7,759,890	8,754,582	8,698,354	8,384,493	8,572,108	8,624,085	6,462,310	6,831,432

出典:令和5年刊三重県統計書 私鉄(JRを除く)各駅別旅客乗車人員

■ 近鉄湯の山線の1日平均乗車人員(町内駅)



出典:令和5年刊三重県統計書 私鉄(JRを除く)各駅別旅客乗車人員

②路線バス

●三重交通(株)の1事業者が乗合バス事業を行っています。路線バスは4路線あり、乗合バスは四日市市と町北部を結ぶ四日市福王山線、アクアイグニスと御在所ロープウェイを結ぶ湯の山線の2路線が運行しています。なお、四日市福王山線は地域間ネットワークを形成する地域間幹線系統になります。高速乗合バスは、当町と名古屋駅を結ぶ名古屋湯の山温泉高速線、名古屋桜台高速線の2路線が運行しています。

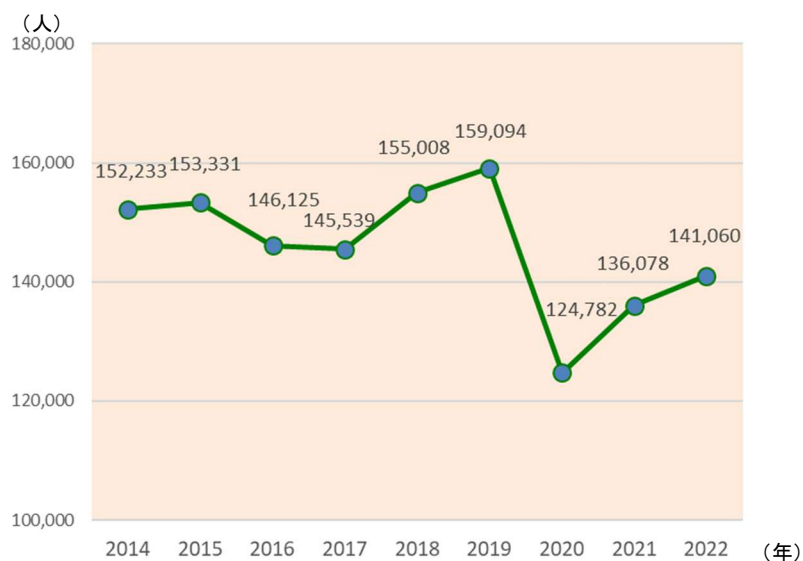
●四日市福王山線の2020年の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少し、2022年においても、利用者数は回復していない状況です。2022年の利用者数は、2019年と比較し、18,034人(11.3%)減少しました。

■ 路線バスの運行状況

路線名	行き先	便数		備考
		平日	土日祝日	
四日市福王山線	JR四日市	10便	9便	
	福王山	10便	9便	
湯の山線	アクアイグニス	9便	9便	4月1日～11月30日の間で平日は1便増、土日祝日は6便増
	湯の山温泉・御在所ロープウェイ前	10便	11便	4月1日～11月30日の間で平日は1便増、土日祝日は5便増
名古屋湯の山温泉高速線	名古屋(名鉄バスセンター)	1便	2便	
	湯の山温泉・御在所ロープウェイ前	1便	2便	
名古屋桜台高速線	名古屋(名鉄バスセンター)	20便	11便	
	桜台	18便	11便	

出典：三重交通(株)HPから作成

■ 四日市福王山線の利用者数



出典：三重交通(株)提供資料

③タクシー

●(有)尾高の1事業者がタクシー事業を行っています。保有車両数は17台で北勢交通圏を営業区域としています。運転手の人数が保有車両数を下回り、平均年齢が高齢化しています。

●2020年の乗客数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少し、2022年においても、乗客数は回復していない状況です。2022年度の利用者数は、2019年と比較し、25,353人(35.3%)減少しました。

■ タクシー事業者の概要

事業者名	保有車両数(台)	待機車両数(台)		乗客数(人)				運転手	
		菟野駅	湯の山温泉駅	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	人数(人)	平均年齢(歳)
(有)尾高	17	6	2	71,813	44,351	42,117	46,460	16	67

出典:(有)尾高提供資料

④ロープウェイ

●御在所ロープウェイ(株)の1事業者が索道事業を行っています。ロープウェイ湯の山温泉駅と鈴鹿山脈の主峰である御在所岳のロープウェイ山上公園駅を結んでいます。

●2020年の輸送人員は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少しています。2021年の輸送人員は、2019年と比較し、103千人(23.5%)減少しました。

■ 索道の輸送実績

年度	普通索道			
	基数(基)	営業キロ程(m)	輸送人員(千人)	旅客収入(千円)
2016	1	2,160	466	389,941
2017	1	2,160	440	366,942
2018	1	2,160	536	490,609
2019	1	2,160	439	405,413
2020	1	2,160	344	332,973
2021	1	2,160	336	326,684

出典:中部運輸局 数字で見る中部の運輸

⑤コミュニティバス

●町が運行している愛称「かもしか号」です。コミュニティバスは、菰野駅、けやき・菰野町役場などを重要結節点として公共施設などを結び、町内 7 系統を車両 4 台で運行しています。朝夕は通勤通学の利用が多く、日中は高齢者が保健福祉センターや基幹病院、商業施設などへの移動に利用しています。

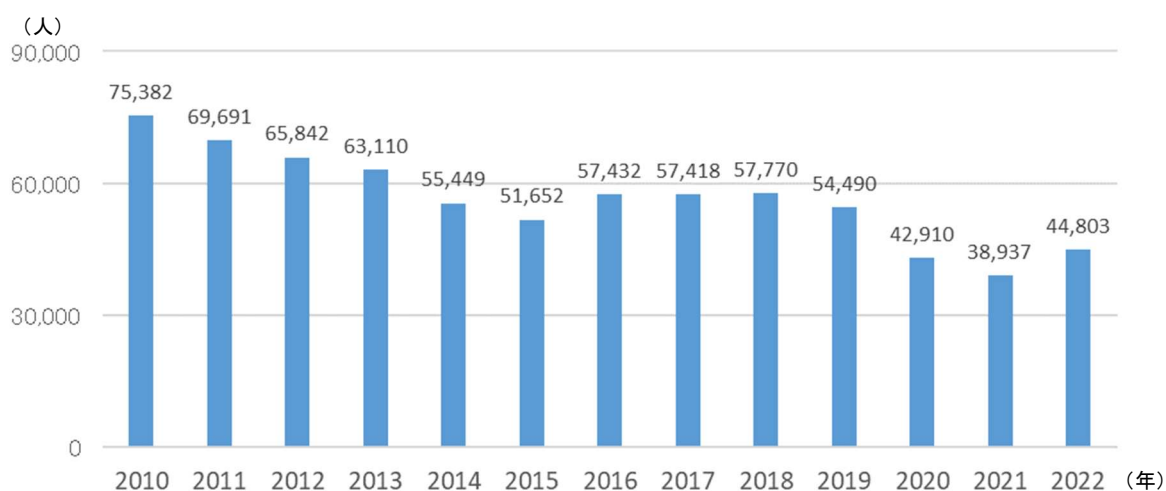
●2020 年の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少し、2022 年から利用者数は回復傾向となっています。2022 年の利用者数は、2020 年と比較し、1,893 人(4.4%)増加しました。

■ 路線別の利用者数

コース	路線	種別	年間利用者数(人)			増減率 (2022年度/ 2020年度)
			2020	2021	2022	
1	神森福王山線	日中バス	15,977	15,022	16,094	0.7%
2	千種根の平線	日中バス	5,036	2,946	3,470	-31.1%
3	小島永井線	日中バス	6,110	4,053	4,365	-28.6%
6	潤田福王山線	通勤・通学バス	7,260	6,489	7,927	9.2%
7	竹永小島線	通勤・通学バス	2,799	4,130	6,249	123.3%
9	神森菰野線	通勤・通学バス	5,371	6,162	6,624	23.3%
10	湯の山神明線	-	357	135	74	-79.3%
合計			42,910	38,937	44,803	4.4%

出典：総務課作成資料

■ コミュニティバスの利用者数



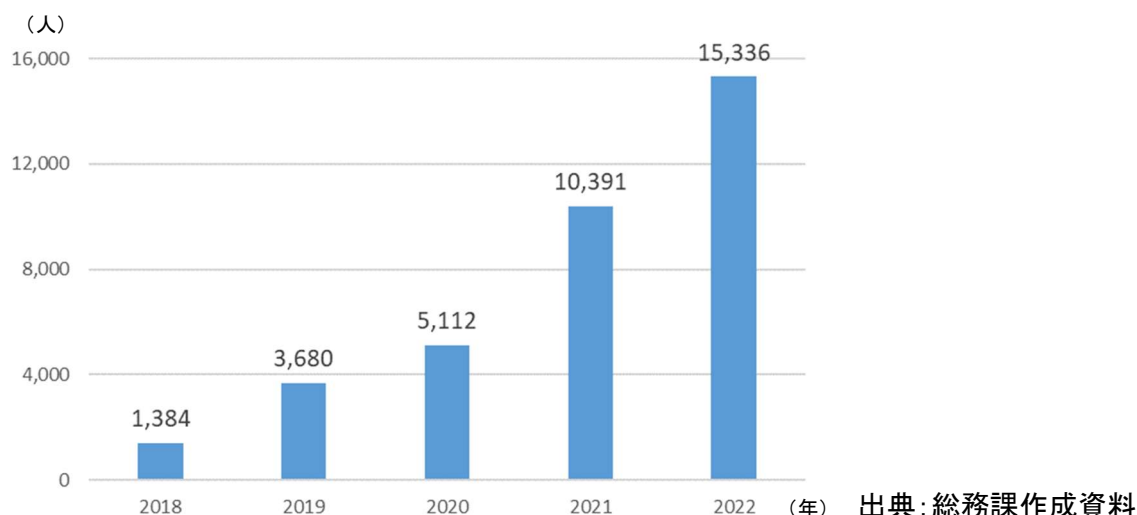
出典：総務課作成資料

⑥AI オンデマンド乗合交通

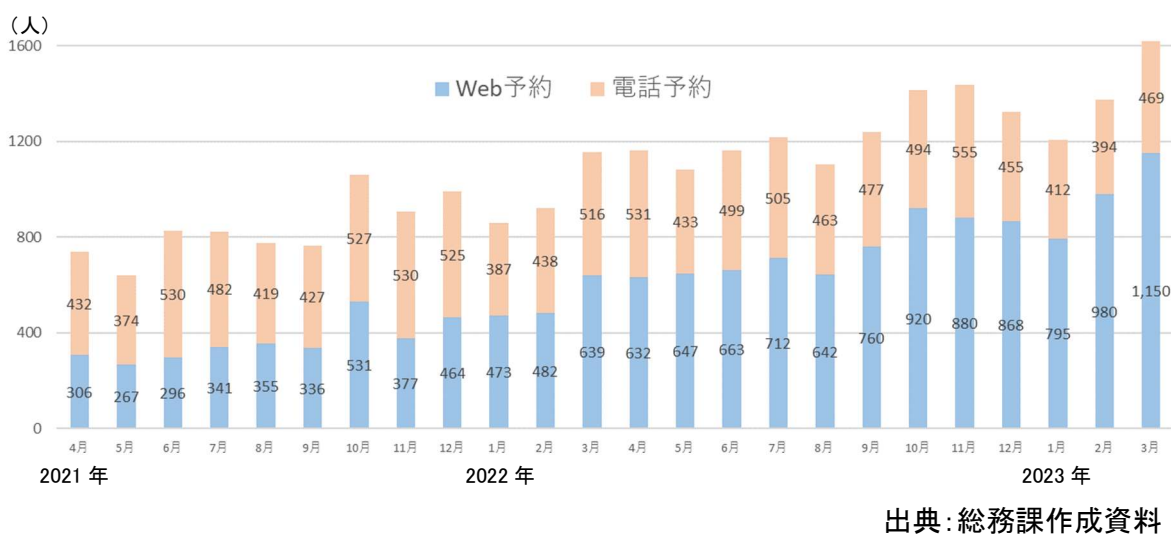
●町が 2018 年 10 月から運行している愛称「菰野町のりあいタクシー」です。2020 年 1 月には AI による配車・予約システムを導入するとともに、スマートフォンなどからの Web 予約を開始し、同年 10 月から町内全域を車両 3 台が運行しています。町内各地に設置された乗降場所から乗降場所までを移動することができます。

●新型コロナウイルス感染症の影響を受けて他の地域公共交通は 2020 年の利用者が大きく減少しましたが、のりあいタクシーは導入以来、年々増加しています。また、Web 予約の利用率も増加しています。2022 年の利用者数は、2021 年と比較し 4,945 人(47.6%)増加しました。

■ のりあいタクシーの利用者数



■ のりあいタクシーの予約方法別利用者数



5 地域公共交通の課題

現状や地域懇談会の意見を踏まえ整理した結果、地域公共交通の課題は次のとおりです。

課題1 高齢者の移動手段の確保

- 高齢者の移動ニーズは、高齢化の進行等により多様化しています。また、地域により交通事情が異なっており、地域の実情に応じた公共交通サービスの提供が必要です。
- 免許を返納しても利用者の負担が少なく、公共交通で病院や買い物などへ行くことができる移動手段の確保が必要です。
- 高齢者の多くは、家族や知人による送迎での移動が多いため、地域が主体となって取り組む外出支援サービス等の仕組みづくりが必要です。
- 町北部の方は、いなべ市などの町外の病院への通院や買い物などに出かける場合が多いため、地域公共交通の町外施設への乗り入れが求められています。

課題2 通学時に利用しやすい公共交通の提供

- 最寄り駅までの通学手段は、家族による送迎や自転車が多く、地域公共交通の利用が少ない状況です。また、朝夕の送迎が家族にとって負担となっている場合があります。
- 通学時にバスを利用してもらうためには、運賃の割引や乗り継ぎ利便性の向上も必要ですが、まずは一度利用していただく取組や、親しみやすく、乗っていて楽しいと思ってもらえる取組が必要です。
- コミュニティバスは紙の定期券となっているため、近鉄に乗り継ぐ IC カード利用者にとっては、利用しにくい状況です。また、定期券の購入は窓口販売のみとなっており、気軽に購入できない状況となっています。
- 暁高校や四日市高校への通学に三岐鉄道を利用している生徒がいるため、通学時における地域公共交通の三岐鉄道駅への乗り入れが求められています。

課題3 来訪者への移動手段の提供

- 駅にある路線図や時刻表などの情報発信を見直すことで、来訪者にも分かりやすい運行情報の提供が必要です。
- 公共交通を利用して来訪された方は、移動手段が限られているため、駅から手軽に利用できる公共交通サービスが必要です。
- 観光施設間を結ぶ公共交通サービスが整備されていないため、土日祝日の周遊バスなど、来訪者の移動手段の確保に対する取組が必要です。

課題4 移動困難者の快適な移動

- 地域の助け合い組織では、病院の送り迎えや買い物の支援などの移動ニーズがあり、ドアツードアの公共交通サービスが求められています。
- のりあいタクシー利用時に、体の不自由な方が使用するシルバーカーなどの積載の協力が求められています。
- のりあいタクシーはミーティングポイント方式を基本とする中で、数十メートルの移動が困難な方もいるため、降車場所の手前に目的地がある場合は、手前でも降りることができるような仕組みづくりが求められています。
- 移動が困難な方は、一緒に移動してサポートする方を必要とする場合が多いため、同乗してサポートする方の運賃を無料とするなど、経済的な負担の軽減が求められています。

課題5 地域公共交通の維持

- 自動車の普及により、町民の地域公共交通の利用頻度は低く、通勤・通学の移動手段は主に自動車となっており、地域公共交通が利用されていません。
- 町民の自動車への依存度が高く、地域公共交通が移動手段の選択肢に挙がりにくい状況となっているため、地域公共交通への利用転換を図る取組が必要となります。
- 地域公共交通を利用してもらえるように、屋外に設置されていることが多いコミュニティバスの停留所やのりあいタクシーの乗降場所は、近隣の建物の中や日陰があるところへの移動が求められています。
- 地域公共交通を持続可能なものとしていくためには、行政だけでは困難であり、町民や交通事業者などと連携しながら、地域公共交通に関心を持ってもらえる取組を実施する必要があります。